記録も感動も超えた8日間！　WMACi 2025レポート

2025 WORLD MASTERS INDOOR CHAMPIONSHIPS

世界マスターズ陸上室内選手権（WMACi）」は2年に一度開催される、マスターズ陸上選手による国際室内大会です。
競技初日時点で35歳以上で健康上の問題がなければ、誰でも出場することができます*。　（*日本マスターズ陸上競技連合・日本陸上競技連盟への登録が必要）

2025年大会は、3月23日から30日までの8日間、アメリカ・フロリダ州アラチュア郡で開催されました。
競技は、最新の設備を誇るAlachua Countyスポーツ＆イベントセンターで行われ、6レーンの200m屋内トラックをはじめ、60m・60mハードル用レーン、跳躍や砲丸投げエリアが完備されていました。

自然に囲まれた穏やかな気候の中、ウォーミングアップエリア隣にある池には、なんと野生のワニが住んでいるというユニークな環境でした。

日本からは、22名の選手がエントリー
🥇 金メダル ２個
🥈 銀メダル ４個
🥉 銅メダル ６個
という素晴らしい成績を収めました。

さらに、**大会新記録1つ、日本記録も多数更新**されるなど、大きな成果と感動に包まれた大会となりました。

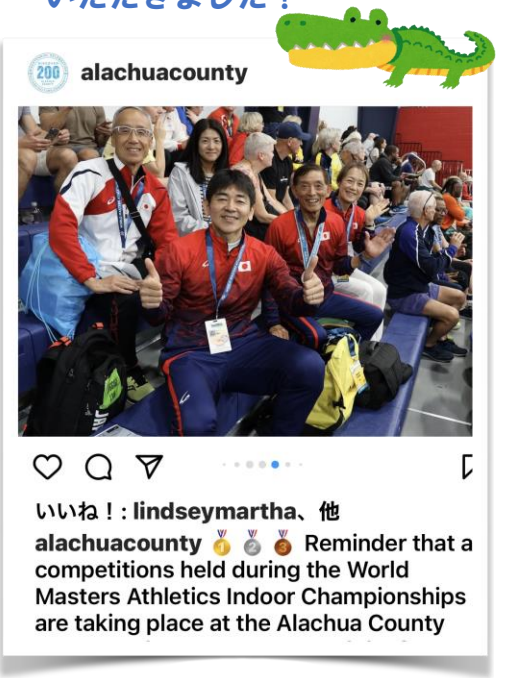
世界を舞台に戦った日本選手たちから、感動や喜びにあふれた感想が届いています。年齢を重ねても挑戦を続ける姿勢、世界中の仲間との出会い、そして一歩踏み出したからこそ得られた経験…
そんなすてきな声を、皆さまへご報告します！

M85　藤崎利廣さま…世界大会７回目の挑戦で、初表彰台に立つ事ができ、素晴らしい日本選手のみなさんのお陰と感謝しております。
マスターズの会員が減少傾向にある中で、新たな仲間や、異文化と接する事の素晴らしさは、これからの生き方に参考になります。「夢や希望を失う時に老いが始まる」の言葉を信じて次のステージに立ちたいと思います。

W70　玉田ゆみ子さま…世界大会への始まりは、フィンランド・ラフャテイーでした。それから15年。アジア大会も含めて13ヵ国参加しました。
マスターズでは、県の大会から世界の大会まで大きく広がっていくことから、競技はもちろんのこと、その国の歴史や文化に触れることができ、感動や喜びを感じることができました。私にとって本当に意味深いものです。
また、アメリカやオーストラリア、フランスの選手らとメールのやり取りも出来るようになり嬉しい限りです。
記録は、年齢とともにかなり落ちます。がっかりしますが、まずは競技できていることに感謝したいと思います。これからも、体が許す限り続けていきたいと思っています。
大会を開催してくれる国や、スタッフの皆さんに、そして日本マスターズの方々に感謝いたします。
これからもこのマスターズの組織が続いていくことを願っております。

M70　佐藤隆一さま…WMACi ゲインズビル大会で印象に残ったのは最終日でした。日本はいつもの大会と比べると少人数の出場となり、たった1チームしか組めなかったリレーチーム（男子M40+）でしたが、それだけに一致団結したTeam JAPANでした。　強豪のカナダチームを破っての第３位 銅メダル獲得！ 選手も頑張ったけど、応援団も力の限りに大声援を送っていました。
駆けつけた家族も一緒に願った素晴らしい団結力の勝利を味わえたことが素敵な体験となりました。
来年の大邱大会のリレーでは、もっと多くのチームを組み、皆さんにこの充実感を味わって欲しいものです。

地元の広報誌に掲載していただきました！

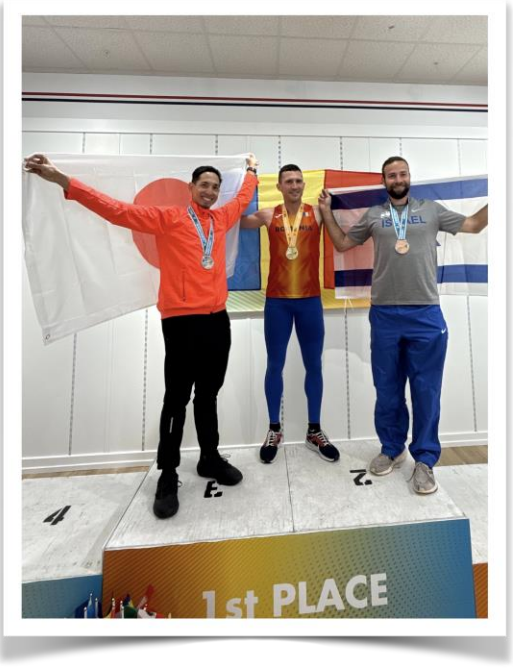


M70　久島　浩さま…30数年前に仕事の関係でフロリダの北にあるサウスカロライナに長年住んでいたこともあり、コミュニケーションや日常生活には特に不安はなかったのですが、生まれて初めてのマスターズ世界大会参加という事でどうなることかとかなり不安を持って大会に臨みました。
しかしながら、会場でのボランティアや役員の方々のフレンドリーで親切な対応、また同じく日本から参加された皆様の優しさに接し、非常に楽しく思い出に残る大会となりました。
今回は残念ながら（？）出場した高跳び、三段跳び共に４位とあと一歩メダルに届きませんでしたが、次回こそは！　と、早くも次の国際大会にも是非参加したいという気持ちが強くなってきています。
あと、今回大会を終えて、自分でちょっと残念に思っているのは、同じ種目に参加していた他国の人たちともう少し会話をすれば良かったなあ、という事です。自分のパフォーマンスや他参加者とのコミュニケーション等々、色々反省点や思うところも有りましたが、初めての世界大会参加にしては大変楽しい、満足できた大会だったと感じています。
これもひとえに藤林様始め、日本マスターズ陸上競技連合の皆様並びに一緒に参加された選手の皆様にサポートして頂いたお陰と感謝しています、本当に有難うございました。次回またどこかの大会で皆様にお会いできるのを楽しみにしながら、健康、そしてケガに気を付けて日々トレーニングに励みたいと思います。

M70　田中　清さま…大会エントリー後、ロードレースで転倒し、鎖骨と肋骨を骨折。治癒しない状態で大会に参加しました。1500mMと3000Mに自分らしく競技に参加しました。スポーツは結果がはっきりと出る世界です。今大会の世界選手権は明確なルールがある中で国境を超えて多くの人が頂点を目指そうとするアスリートの姿は感動的で自分の心を動かしました。勝ち負けの結果を出すまでの、日本選手団の日頃トレーニングやプロセス、そこに向かう姿勢がさらに自分の心を動かしました。どう種目と向き合うか、アスリートという人生をどう生きるかが大事だと感じ、結果が出ても、出なくても勝つことに全力で向かうアスリートの姿勢を学びました。今回はケガ（骨折）という壁にぶつかりました。次大会は目標達成の為、自分の課題を乗り超える努力をしていきます。

M70　原沢　勲さま…世界大会が行われた都市はどこも治安の良い所でしたが、フロリダも同じでした。心配していた物価も食料品には税金がかからず日本よりも安く感じました。
体調不良で練習不足でしたが、世界大会でしか味わえない楽しさを、参加した皆さんと共有することが出来良かったです。日本からの参加者が少なかったのが少し気になりました。M90で200mを37秒12の記録を出したモンゴルの選手のすばらしい走りには大変驚きました。

W65　高橋葉子さま…1周200mトラックでのレース（200m以上の種目）は、屋外レースとは全く別競技でした。両カーブの端が高くなっているため、外側のレーンになるほど急斜面からスタートし、一気に下り坂を降りて平坦な直線を経たのち再び上り坂→下り坂→直線でゴール。さらに400mは150mからはオープンレーンになり、そこに駆け引きもあり。日本のマスターズでは経験できない楽しいレースでした。藤林様はじめ役員の皆様、お世話になりました。ありがとうございました。



世界マスターズ陸上室内選手権2025 フロリダ大会にて、選手の皆さまがそれぞれの目標に向かって競技に挑まれるお姿に、深く心を打たれました。
成績はもちろんのこと、日々の積み重ねがあってこそのチャレンジの数々に、大会の意義を改めて感じました。
出場されたすべての選手の皆さま、そして日頃から選手を支えておられるご家族や関係者の皆さまに、心からの敬意と感謝を申し上げます。

次の世界大会(屋外)は、2026年8月22日～9月3日に韓国・大邱(テグ)で開催されます(予定)。新しい環境での挑戦は、きっとまた特別な経験になるはずです。
ご自身のペースで、次回の舞台への一歩を踏み出してみませんか。

フロリダ大会 チームマネジャー
日本マスターズ陸上競技連合理事　普及広報委員長　藤林真美